

第31期 (2026年3月期)

決 算 公 告

(2025年 4月 1日 から
2026年 3月 31日 まで)

東京都目黒区三田一丁目6番21号

IHミートソリューション株式会社

貸 借 対 照 表

(2026年3月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	2,722,615	流動負債	2,950,164
現金及び預金	4,644	買掛金	1,726,990
売掛金	2,221,354	未払費用	57,376
商品及び製品	11,566	リース債務	4,630
原材料	406,342	賞与引当金	167,100
仕掛品	30	役員賞与引当金	5,155
貯蔵品	49,149	未払金	254,586
前払費用	2,656	未払法人税等	42,966
未収金	23,325	未払消費税等	10,743
立替金	1,863	預り金	3,882
仮払金	1,682	関係会社預り金	676,734
固定資産	1,135,334	固定負債	321,838
有形固定資産	824,715	退職給付引当金	41,691
建物	332,985	特定従業員退職給付引当金	10,481
構築物	13,137	リース債務	7,457
機械装置	441,694	資産除去債務	245,622
車輛運搬具	320	繰延税金負債	16,584
工具器具備品	12,057		
リース資産	10,989		
建設仮勘定	13,530		
無形固定資産	2,131	負債合計	3,272,003
借地権	1,000	純資産の部	
ソフトウェア	1,128	株主資本	585,946
水道施設利用権	2	資本金	80,000
	-	資本剰余金	298,130
		資本準備金	-
		その他資本剰余金	298,130
投資その他の資産	308,487	利益剰余金	207,816
長期前払費用	223	利益準備金	20,000
前払年金費用	261,395	その他利益剰余金	187,816
差入保証金	46,860	固定資産圧縮積立金	-
長期未収金	7	別途積立金	-
		繰越利益剰余金	187,816
		評価・換算差額等	-
		その他有価証券評価差額金	-
		繰延ヘッジ損益	-
		純資産合計	585,946
資産合計	3,857,950	負債・純資産合計	3,857,950

(注)記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

注記事項

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法
 - (1) その他有価証券
市場価格のない株式等
以外のもの

市場価格のない株式等
 - (2) 棚卸資産
商品及び製品

仕掛品, 原材料及び貯蔵品
 2. 固定資産の減価償却の方法
 3. 引当金の計上基準
 4. 収益及び費用の計上基準
- | |
|--|
| 決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) |
| 移動平均法による原価法 |
| 先入先出法による原価法
(ただし、販売用食肉は、月別移動平均法による原価法) |
| 月別移動平均法による原価法 |
| (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定) |
| 定率法
ただし、1998年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)及び、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。 |
| 定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいて
おります。 |
| リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 |
| 売上債権等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、
貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上し
ております。 |
| 従業員賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。 |
| 役員賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。 |
| 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の
見込額に基づき計上しております。
・退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法
については、給付算定式基準によっております。
・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(12年)に
よる定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定
の年数(12年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理して
おります。 |
| 商品又は製品の販売に係る収益は、主に卸売又は製造等による販売であり、顧客との
販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。
当該履行義務は、国内販売については、出荷時から当該製品の支配が顧客に
移転される時までの期間が通常の期間であるため、商品又は製品の出荷時点において
充足されると判断し、出荷時点で収益を認識しております。国外への販売については、
輸出の取引条件による在庫の保有に伴うリスクが顧客に移転する時点で収益を
認識しております。 |

当期純損益金額

当期純利益 186,516千円
(注)記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。